

臨床研究部だより 2025年11月

「国立病院機構沖縄病院医学雑誌 第45巻 編集後記」

現在、多くの医療機関では物価の上昇、人件費の増加が大きな問題となっています。現行の診療報酬では見合わず、多くの医療機関では厳しい経営環境に直面し、当院も例外ではありません。さらに2040年を見据えた地域医療構想がはじまり病床や病院の機能分化がすすめられ、病院経営には生き残りをかけた知恵と選択が必要となってきています。

当院および国立病院機構では臨床研究を推進していますが、厳しい経営状況のなかで臨床研究は継続可能なのでしょうか。診療が忙しくなり収益確保に注力するなかでは、研究に充てる時間や人材はコストと見なされる可能性があります。これまでのような診療と臨床研究の時間配分が成り立たず、個人や家族との時間を削ってまで研究を続けられるのかということ懸念しております。

このような忙しいなかでも、今年も沖縄病院医学雑誌へ投稿いただいた職員の皆さまには深く感謝申し上げます。毎年の繰り返しになりますが「記憶よりも記録を」、「自分の小さな仕事が何時か何所かで誰かの役に立つ」本誌の信条と考えています。

診療のみを行う病院にするのか、それとも未来を見据えた研究も続けるのか。臨床研究の効率化を図るとともに、臨床研究の意義について、これから強く問われてくるのかもしれない。

～よりそう探究心～ 臨床研究部 河崎英範